

伊勢・三河湾貧酸素情報 (H30-1号)

平成30年6月7日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

はじめに

今年度も6月から10月まで、伊勢・三河湾の貧酸素水塊の発達状況について、現況と予測の情報を提供します。

データは、三重県水産研究所が「あさま」で実施する浅海定線調査、愛知県水産試験場が「海幸丸」、「へいわ」で実施する環境調査等の結果を利用し、月2、3回程度情報提供する予定です。

情報は、迅速性が求められるため、調査後速やかに提供することとしております。このため、データは速報値であり、後日、補正等で修正される場合もありますので、ご承知おきください。

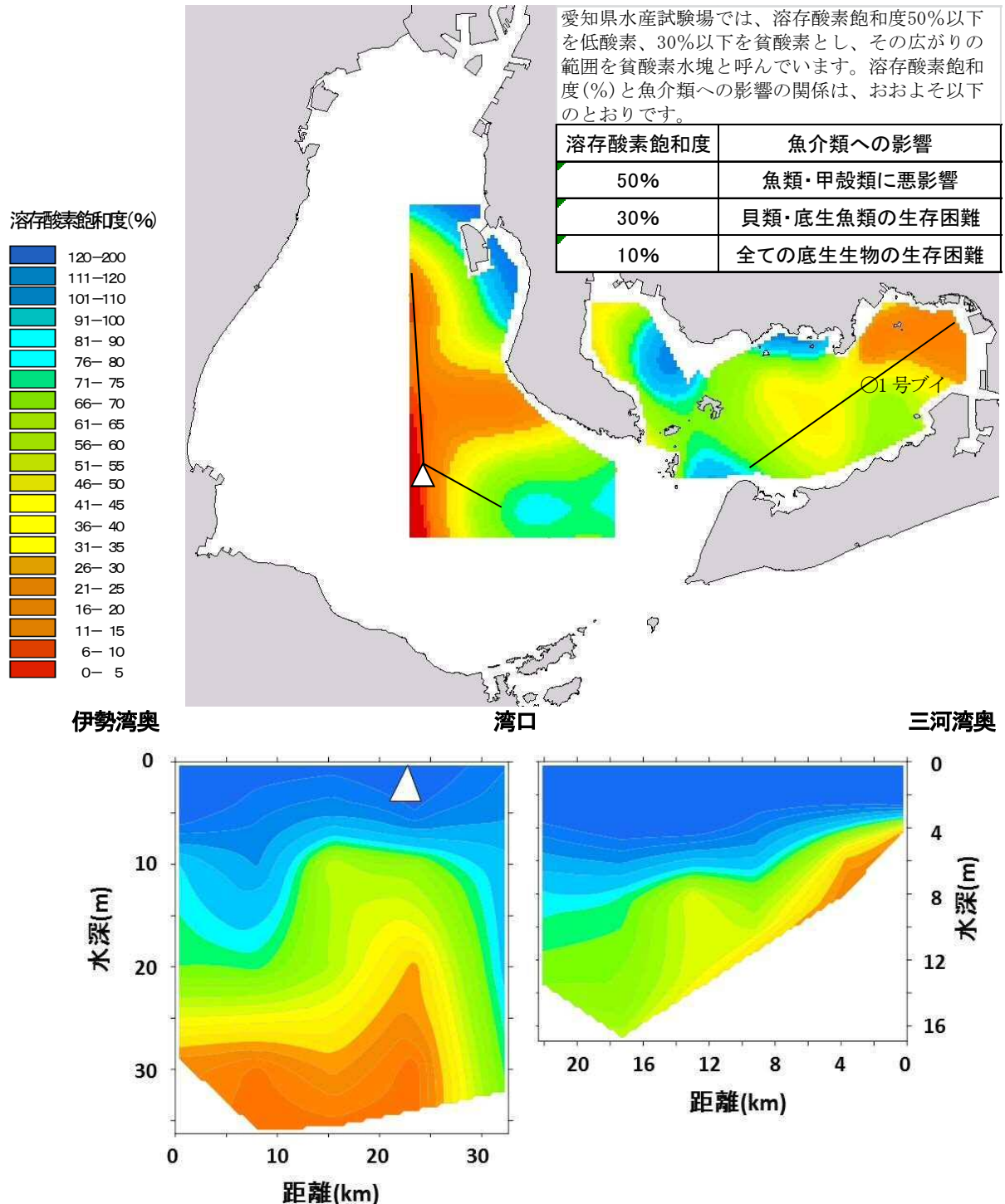


図1 伊勢湾(6月5日)・三河湾(6月1、4日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)(愛知県「へいわ」調査)

伊勢湾

6月5日の調査結果を図1に示しました。伊勢湾の湾中央部で貧酸素水塊が確認されました。

今後は、初夏に向かう気候の影響を受け、表層の水温上昇と塩分低下にともなう成層の発達により、貧酸素水塊が拡大すると思われます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	21.9~23.0	28.2~30.6
底層	14.4~21.9	29.9~33.6

三河湾

6月1、4日の調査結果を図1に示しました。三河湾の湾奥部で貧酸素水塊が確認されました。

三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ（蒲郡沖）のデータをみると、海底から5m前後に躍層が生じ、溶存酸素飽和度が50%以下で推移している様子が観測されています（図2）。

今後は、初夏に向かう気候の影響を受け、表層の水温上昇と塩分低下にともなう成層の発達により、貧酸素水塊が拡大すると思われます。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	19.7~24.1	27.7~31.0
底層	18.1~20.8	31.0~33.2

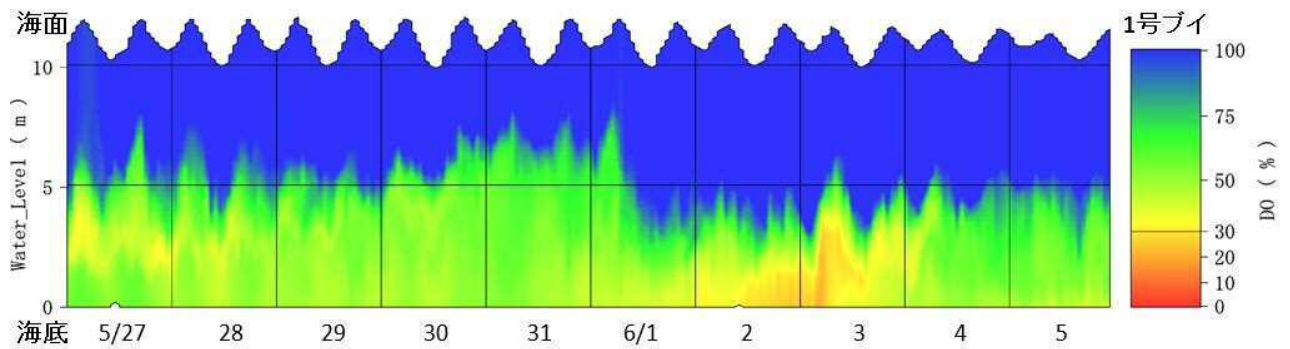


図2 溶存酸素飽和度 (DO) の経時変化 (三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ)

参考

前年同期の両湾底層の溶存酸素状況

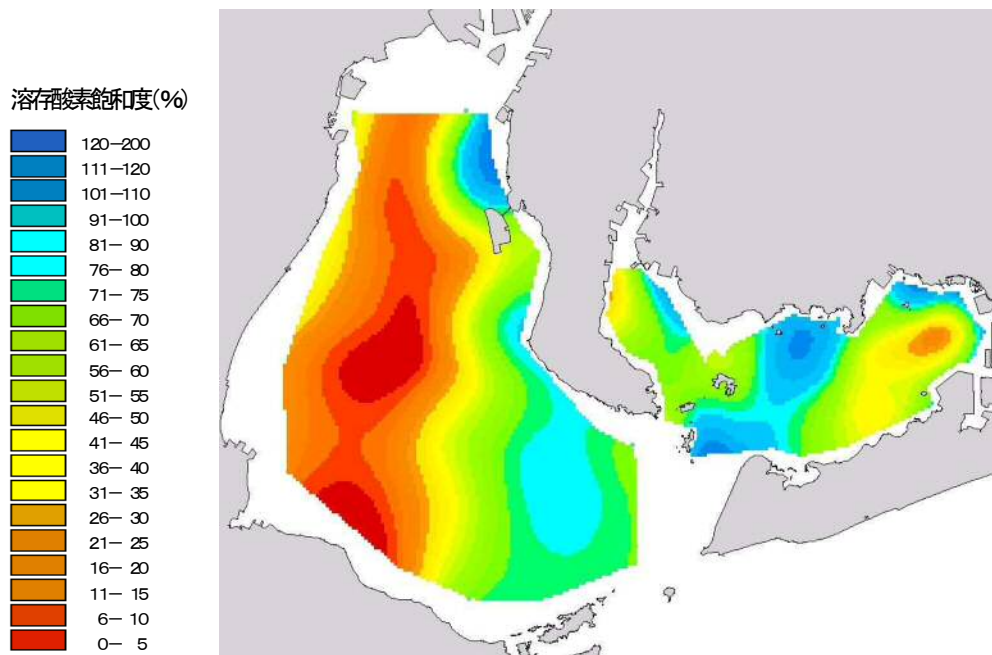


図3 平成29年6月5、6日 (伊勢湾)、6月1、2日 (三河湾)